第6学年 体育科学習指導案

活動日 平成14年2月16日
 授業者 近藤真弘
 活動場所 体育館(2階)

1. 単元名 「跳び箱運動」(全6時間)

2. 単元について

運動面

頭はね跳びは、台上前転を発展させた技であり、「頭支持倒立」から「回転」という流れをスムーズに行うことによってできるようになる。「腰を高く上げることができない」「背中を反らせることができない」等のつまずきを、練習方法を工夫して取り組むことによって克服していきたい。また、技の段階を細かく分けて「ここまでではできない」というめあてを持たせ、その「技」「段階」ができた時に喜びや楽しさを味わえるようにしたい。

集団面

跳び箱運動は個人で行う運動であるが、仲間同士で関わっていこうとする姿も大切である。活発な相互援助活動を行っていき、集団としての意識を高めていきたい。また、器具の準備や準備運動などをグループで行うことや、ルールを守って安全に運動に取り組む姿勢を身に付けさせたい。

3. 願う子どもの姿

運動 跳び箱を強く突き放して脚を勢いよく跳ね上げ、背中を反らせて膝を伸ばした頭はね跳びができる。

集団 仲間の運動の様子を見て、上達のポイントやつまずきに応じた効果的な練習の場と方法を教え合い、励まし合って練習することができる。

4. 研究との関わり

研究内容 に関わって(基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのっとった指導計画の在り方)

技術ポイントに焦点をあてた動画やパネルを利用し、運動を行う上で重要となるポイントを正確に理解する。また、ビデオを利用して自分の運動の姿を視覚的にとらえ、課題の克服へとつなげる。

研究内容 に関わって(基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)

技能については、動画やビデオを利用しながら、個人の課題に合わせた練習をする。態度については、学習ルール(集合・役割・練習態度・安全・相互援助活動)を定着させて学習の円滑化を図る。学び方については、個人の課題に合わせて練習方法を選択して行う。

研究内容 に関わって(基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)

反省会で、本時の学習の様子や課題について振り返る。その反省を受けて、次時への意欲や課題を持つ。また、自己評価を得点化してグループごとに平均化することで、集団面を高めていく。

5. 単元指導計画

	ねらい	主な学習活動	自ら学ぶ姿の育成
第一次	1 ・めざす運動の姿や集団の姿がわかる。	・めざす姿を知る。 ・既習の技を練習する。	自分めざす運動の姿を、目標として持つことができる。
第二次	2 本時 5 ・頭はね跳びができる。	・課題に応じて練習方法を工夫して取り組み、目標に応じて段数やたて、横を変えて挑戦する。 ・動画やビデオカメラを利用して練習に取り組む。	自分の運動の様子を知り、上達するための技術ポイントや練習方法をつかむ。 仲間への補助や助言を行うことができる。
第三次	6 ・成果を発揮、確認することができる。	・発表会を行う。 ・めざす姿を振り返る。	仲間の演技を応援し、伸びをお互いに認め合うことができる。

6. 本時の目標 (4 / 6 時間目)

運動 仲間との関わりや動画により、腰を「くの字」から一気に跳ね上げることや腕を強く突き放すことを意識したり、ビデオカメラにより自分の運動の様子を確認したりすることで、背中を反らせた頭はね跳びができる。(4 点)

集団 仲間の課題に合った練習の場や方法を助言したり、技術的なポイントを具体的な言葉や姿で示したりすることにより、お互いに高まっていくことができる。

7. 本時の評価規準

技 能	背中を反らせた頭はね跳びができる。
-----	-------------------

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって 資料 評価 支援
つ か む	1. 用具の準備と準備体操をする。 ・グループで跳び箱を準備し、準備運動を行う。 2. 本時の課題が分かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 背中を反らせた頭はね跳びをしよう。(4 点) 脚の跳ね上げや腕の突き放しのタイミングが分かるように、声を掛けよう。 </div>	技術ポイントや練習方法が分かったか。 ステップ表でポイントを確認する。 個人課題を持つことができたか。 個人カード 個々の課題や意識するポイントを問い掛けることで確認する。
ふ か め る	3. グループで計画を立てる。 ・個人課題やグループ課題を確認する。 4. 前半の練習をする。 ・グループの苦手な仲間への補助や助言を中心にした練習をする。 5. 中間の研究会をする。 ・前半練習での自分の運動の伸びが分かる。 ・後半練習の課題を持つ。 6. 後半の練習をする。 ・ペアやトリオで、個の技術が上達するように、繰り返し練習する。	リーダーの指示に従い、苦手な仲間を中心にグループ練習ができていないか。励まし合い、補助や助言をし合って練習しているグループやリーダーを認めてほめる。 前半練習で技能を上達させることができたか。 示範した児童の技術的なよさを全体の場で広める。 技術ポイントや練習方法を意識して練習に取り組み、上達することができたか。 動画・ステップ表・パネル ビデオ撮影により自分の運動の様子をとらえ、意識するポイントの確認をするように助言する。
ま と め る	7. グループで発表会をする。 ・練習の成果を、グループ全員で演技をして確かめる。 8. グループで反省会をする。 ・自分の伸びを確認する。(学習カード) ・技を高めるために努力した姿や、仲間で言葉を掛け合って学習できた姿を振り返る。 9. 全体で反省会をする。 ・本時によく努力したグループや児童 (運動面・集団面) を、お互いに認め合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 背中を反らせた頭はね跳びができたか。 脚の跳ね上げや腕の突き放しのタイミングがわかるように、声を掛けることができたか。 </div>	個人の技能が高まったか。 技能が高まった児童をほめる。高まったのは、グループやペアのがんばりがあることを話す。 個人カード・リーダーカード (グループ平均点や伸び) ・サブリーダーカード (きまりの達成度) 個人の技能、グループ得点や伸び、きまりの達成度が高まったか。 具体的な段階、得点、達成率で評価する。